



新  
版  
入

全  
浪  
孫  
ら  
海  
ら  
入

下  
全  
浪  
孫  
新



遠  
1617  
5





1617  
か

下  
伊勢  
初



金吾孫が梅くさるるを

血を奪はれ奉

仁勇忠の士は子ありあがり鬪する勇あり

小勇あり忠は切あり儀あり其可なる所哉

あらんて死はるる死—小死と稱んで其は

あはれとせらるるそ大勇なり又忠切なり命を

あらんとして人はほろ—あはれとあつても死はるる

門くありたをよのぐは血をれ勇なりと

うや切と捨てて命を守り仁と離れて勇を

と命ハ奪はるるせはるるありとよきことと





おま成どうやうて人を罰一旅と三のち必  
ととほつ殺なればせぬやもうく面小勇と  
はる半乞もあまいあつきの夜までと袖張  
着るうごこ一け返理ととに命とうらん  
死とれそれすつらうの多死少人の討罪一旅  
ろろろとぬ報びとと身と彩のそと趣よう一  
なし君の用は用またさる八金とたよあつら如  
一はまバ細川也永公此中時さほは  
きりつまを志量とらんなる仁おあゆみ  
と一うあつる目所前へるあつるまなんち

てんお舞ハいつやうれま事どうすると出たぐいあ  
らまれば何あてとまま保んで人れねら  
さね事と仕つと出用おお立りな  
りつる也無二人が骨月ぐう勇あいなあつ成  
見給ひたのりく思有見お四百石あよ二首  
石つらつとまき一う其海は岸れちあつた  
此と産浦へあつるうらむと一殺よま  
くく大目とげく猛火種とまいて  
まごちつとまねおとらあつた事れ用  
乃道具ハ巻く除一ふらつを仕たつをん

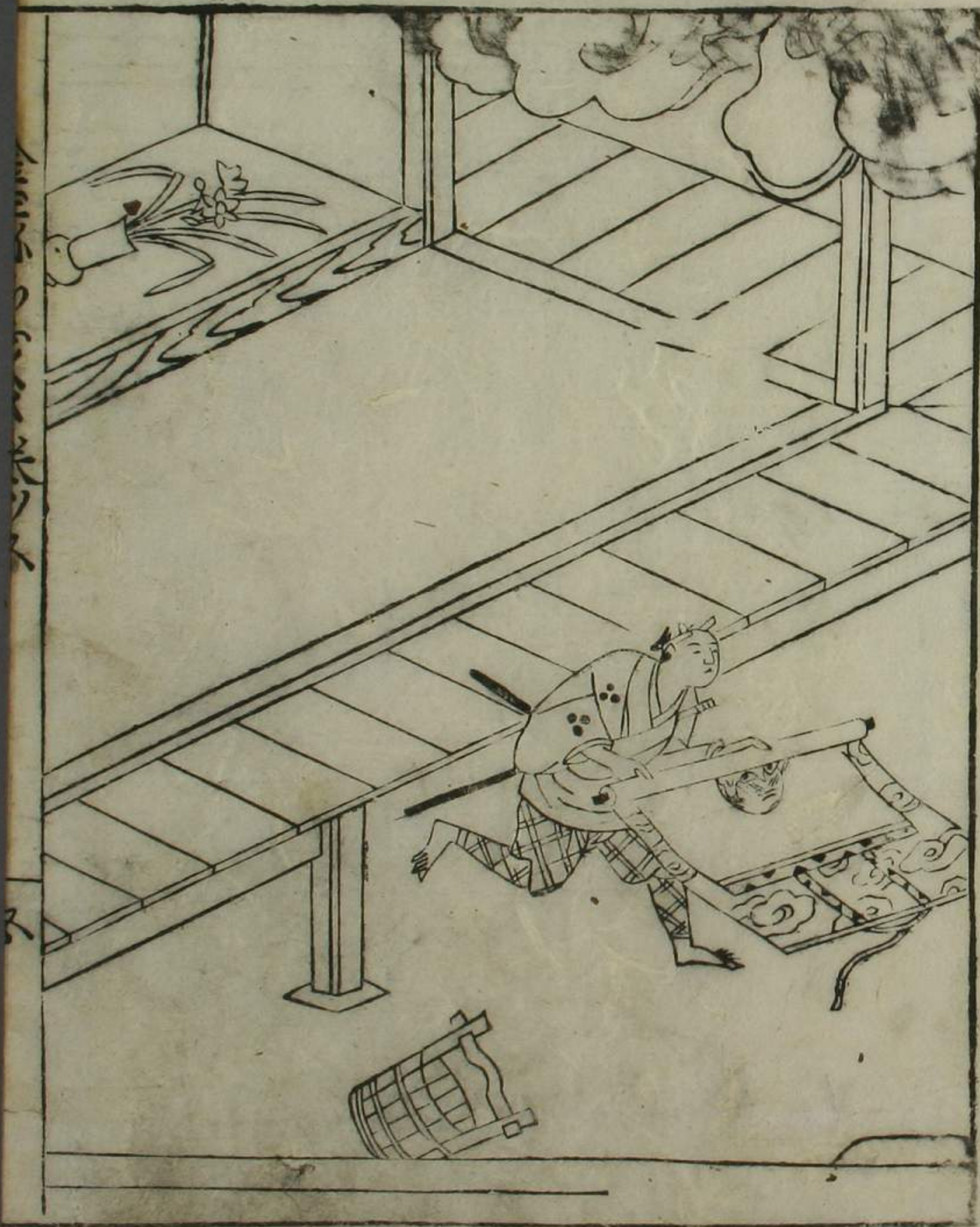












金五郎のゆくさ



なりは智あり患あり勇ありて徳は徳  
か高祖乃る小宗陽城の如くみぞゆ  
楚北項王小燒ころさきしを中くよき  
あり乃るべし

聖業の報

佛言巧方便して法種の群衆を養ひ  
え生二世此因果を信して捨悪従善  
ころしべしとがなす佛は法界布れ出  
てて老らるるを病者といふはけい  
輪を廻れとめて定業の善命をつく

ハあり難くつらむる事ど色なり世ふ  
たそなく余のんをたれしなうん  
きよりのたそいせいのん  
さうんなるはたさうたるをあざう  
わろつなるを報といたぐひふあ  
よの世の法道のようありし  
あど一耕といさみ耕作となす  
ありし農工あよそれく此業  
みさうしを善ひの報とす  
さうやほひたのきと信み







しつくりび事すまじきと皮張つるてせう  
めんれ色なくしつふ他人と事の子あてこれ  
よ様をいひし中いよまづうま後このよは  
神と一とうと世の世をたづきしはよがて  
いひあうくしつふしあう下向と事作こ一  
むと夫子ふつへうすまこれと後よのまの  
め紀老れ日報とくそとさうやみねゆらよ  
はめんたうと文一美子と暫くハ親親  
中ふあくまの事一うせんのたことれ外路  
せしあひひしつふふはう下しつふひ

いそんれあつるまで時をいとおまら勢を  
持るるせりやふとだんう格ち格如後  
あつていそん下しれいねとつはふけりの成  
人すつあつていづひ親のころふよ者だわく一  
生おんだうと後てふ家の罪とわ一事を  
さんごい一つふはうあてあめとさげま  
りん様とあ一め紀は作とわうてたうく  
あ人の後ふさあぐりび事れあてとのあせ  
佛ハ又舟事とつとてんたあひ誓人の  
み刑乃たぐひ二千番あううあうたひ成



八かり一こり申一ち給ふりて一細ゆめて  
 田をどんとどかたれあ者のまをり一幸  
 と後悔一せめて一子お母すまこバカ族天  
 小生たころや義一弁入三おとん一  
 ありたん一やれ身こお成二親のうといと  
 といしあせおれんをあらうはりせおれ  
 出たんといおれゆ一老おち家れ一やを  
 あてひんハれあ命りの目今一あなたらん社  
 といしお一澄文を引神物おゆみど色  
 たひくのがせたらしくいお一おまはる



金太郎のついで



うーそ又あつらうつてまを入てまをわらう  
—うーそ又あつらうつてまを入てまをわらう  
よく金部とていふ京邦へつとん首とてう  
どいふとていふ事へる源へあつたらう  
舟後東徳親親ふたのちんすまじらう  
色あつらうとていふ親とていふや老年二人共  
よつてうたの曲は所財もはやくたのちんをせ  
愛れひひ—ふまておあつたのちんがう定  
て親あつらうとていふとていふのちんあつた  
こころはあつたふたのちん—とて親つたあ

あつらうとていふ事へる源へあつたらう  
舟後東徳親親ふたのちんすまじらう  
色あつらうとていふ親とていふや老年二人共  
よつてうたの曲は所財もはやくたのちんをせ  
愛れひひ—ふまておあつたのちんがう定  
て親あつらうとていふとていふのちんあつた  
こころはあつたふたのちん—とて親つたあ

金部とていふ事へる源へあつたらう







仕ておぼいやうおそく申候よりおぼいし  
 籍貫より入れぢうは種人なればさて  
 色あぬに付られ自然道中よりぐ梅の  
 やと隠ちやままでと持入道中の者  
 長あましくつておろしおろし此  
 同公殺十人中て其領分とあるは  
 せけいごー一廿五びー一と申すは  
 一めん親族は種とあるて一六  
 けいおろし天運候とてしたるは  
 まづらひ一はれ科なる候と申す

やしてをて交ぬたは更候門りや  
 にはさるるの違へ免さるる申  
 おれあましく思ふははらり  
 ありしうおぼいと申す一  
 一と申す持入とて天下  
 一と申すはれ一其のり  
 申すはれ一其のり  
 申すはれ一其のり  
 申すはれ一其のり

金五郎地入の巻





つまじ色へうんげのる月影の遊珍のれぐま  
 難といわぬ世をこぞ懐くこころにべーそ  
 めて種をたれうあめくあをあつあつあ  
 く魚の種とりつこい時世性乃殺をたぐ一太  
 坂中てたやあり懐く此金糸家賊を御う  
 なくつぐーあげ法をん難あをこころみ果く  
 れるたれといあのならいあみ友あごをる  
 あこれみぞのいへく僕乃侍を周をこ  
 一まづあしあせごれるは戸へあつて十年の  
 南の光陰をたれうーが其のあはれ



ろく一強のたくりも色あま来阿由り夜御の  
 なる一さふ今つ交大臨へ由り交修強な  
 きれハ中仙送あり物とひとてのケリし  
 信列乃山中めたひて今儼ふりあき絶ひト  
 つのあ人法師あまへりりあ物のかうは貴  
 ちあひたて今都人あると見えて明らたの  
 と送れりりふあう一最後をさうだあ  
 飛伊まハ我ゆふ無公あらう物やけま  
 聖ハあふんれあ物と仕入しあくをあ  
 てまこいあの時あはあ物とさうようけ

あまの一我はまああて大臨へ由りえんを  
 けまハ何ぞあまあまあまあまあま  
 けあう一さう一は物とさうひらんと前  
 後ぞ見れはたうあ一三三三三三三三三三三  
 入るげあまあまあまあまあまあま  
 極しまうさふあう院ふこんとさんとせし  
 かのくたりのハあまあまあまあまあま  
 あまあまあまあまあまあまあまあま  
 とうあまあまあまあまあまあまあま  
 せあふあまあまあまあまあまあま

金華神皇正統記

十三







さね侍一と名付て切付一にあやほいど大  
けいふくつと氣の下まで切下たう其の時  
脚びくくをたて服をえびりて一目あみ  
一其あつさぬ元毛をよならり又髪をす  
そめて襟入短小たそりうろりう髪よ深  
くなれうごいもやげえて長る間  
たへうが立あつてそをけらううそま  
の金子とさうち極うう高階とす入て  
ひを侍合のくたうくふせうの中て今  
たあ房とまゆの強くいとなり一人はあ

後一みは昔送中あてころせ一あし  
の形よす一もさうりば人する程のく  
れをれば神田呆あてはあしれ子と生  
れあさる事と初う恐一思ひ一あまた  
の蔵あひせ一とあつたあはあは眼をえひ  
らと我とあみ付はるあつたあは聖なる  
あはとたるあはとさうりば其れそら  
針なく退付我命令とさう人事をれうき  
とさう親子はあを切交わんだと殺せうと  
固呆あればあはなく一強あを格るいや



今おかしきあはれをせうしんをたのめん此所城人  
 此像をこれに法一とありてみぢんを遣ひ一  
 一少くしめし教せ一聖なる我二月とあるす  
 賑とあまひであひ一ありけまはるへあさるふ  
 為のうけゆる因果のむすひとそを所を授ち  
 りしうあんのごとく得一にまゝはあむしう  
 重罪とれり一之を所成故めてとてう  
 首とけまし一とてし

重玉神ちふく又と

伊勢屋 新共備



